

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよろこび 1ユニット		
所在地	名古屋市緑区桶狭間北三丁目902番地		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371400959-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体に精神科病院があり、認知症の方はもちろん精神疾患を患っている方でも安心して生活出来、内科的疾患を持っている方には隣接するクリニックがあり訪問診療や受診にて安心・安全に暮らせることが出来る。また、クリニックでは透析センターもあり、透析の方の送り迎えを行っている。コロナ禍の中、外出する機会が減り入居者の皆様にはストレスが溜まる毎日と思われませんが、毎月感染対策を行いながら楽しみごとの行事は続けて行い、入居者の皆様にはストレスが溜まらないようまた、笑顔を保つようスタッフ一同日々取り組んでいます。感染対策に力を入れ、毎日の消毒、検温、入居者様・スタッフの体調管理を行い、現在まで一人のコロナ感染者は出ておらず、今後も手を抜くことなく質の高い安心・安全な暮らしが出来るように努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が医療機関であることで、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難な状況が続いているが、協力医療機関がホームの近隣に開設されていることで、受診を通じて利用者の外出の機会にもつながっている。外出については、ホームの近隣に広い公園が整備されていることで、利用者の散歩の機会にもつながっている。地域の方との交流についても困難な状況が続いているが、地域で行われている災害訓練にホームからも職員が参加する等、可能な範囲での交流を継続している。ホームの運営面に関しては、運営法人全体で行われており、職員研修の取り組みについても運営法人全体で実施しており、ホームからも職員が参加する機会をつくる等、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関先、事務所内に理念を掲示し、入社時又外部研修者にも理念の説明をし、共有実践につなげている。	ホーム名でもある「よろこび」から考えた内容の理念を掲げており、職員間で理念の内容を共有し、日常の支援につなげている。また、職員間で目標をつくる取り組みも行いながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年もコロナ禍の為、地域の行事も中止となっており、交流することは出来ていない。	地域の方との交流が困難な状況が続いているが、地域で行われている防災訓練にホームからも参加する機会をつくる等、徐々に交流を再開している段階でもある。また、地域の中学校との交流についてはプレゼントをもらう等の機会がつけられている。	感染症問題が長期化していることで、地域の方との交流が中断している状況が続いているため、今後の状況もみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、運営推進会議は今年も書面での開催となっているが、入居者様の状況報告や活動内容等、会議資料を委員に送付し意見を伺える体制を取っている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面を通じてホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。例年は、運営法人の関連事業所との合同の会議が行われており、運営法人全体の現状に関する意見交換等が行われている。	会議については、書面による実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開に向けた検討、取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	自粛や中止になっているが、質問事項など電話で問い合わせをしている。	市で行われている研修会等が行われる際には、ホームからも職員が参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。運営法人の事務局を通じた情報交換等も行われており、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事務所内に身体拘束についての資料を掲示し、日々の話し合いの中で身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合は身体拘束会議を行い、ご家族様同意のもと、身体拘束記録をつけ期間を区切って行う時もある。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入り口についても利用者が開閉できるため、職員間での見守りが行われている。運営法人全体で身体拘束に関する検討が行われている。また、定期的な職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の資料を掲示し、会議や研修等を定期的に行い、学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業所を活用している入居者様はおられるが、制度の理解は一部の職員のみとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけ十分に説明し、理解に努める。改定等の際は予め、書面で説明し疑問等には適切に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部の評価機関アンケートを行い、ご家族様からの意見や要望を真摯に受け止め、改善や運営に反映させている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、面会の機会をつくる等の交流が行われている。家族からの要望等については管理者が対応しているが、運営法人の事務局でも対応が可能である。毎月のホーム便りを作成しており、暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の全体会議、スタッフミーティングや毎日の申し送り等で、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	職員間で意見交換等を行う時間をつくっており、職員からの意見等を管理者が把握し、運営法人の事務局に報告する等、ホームの運営への反映につなげている。毎月の運営法人で管理者会議が行われており、管理者間での意見交換等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の人事評価を行い、勤務状況を把握している。また担当業務を作り各自やりがいや向上心を持って働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験や能力に応じた研修への参加とその内容を他の職員と共有し、働きながらトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	オンライン研修にて、同業者と交流する機会を設け、他の職員と共有し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談にて本人の今の状況を把握し、本人本位で安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時はもちろん、導入後も家族が不安なこと・要望に耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要なサービスを見極め、対応している。他のサービスが必要と判断した時も、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を見極め、役割を持って生活することで本人の自信にもつながり、共に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	問題が起これば家族と相談し、本人に一番よい方法を考え、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の中、家族以外の面会、外出等難しく支援が出来ていない。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、電話を通じて交流を継続する等、ホームからも支援が行われている。また、家族との外出についても、医療機関への受診等を通じた外出が行われており、家族との交流にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係を充分把握し、入居者様同士が関わり合い支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻った入居者様の相談にのり、継続し支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス導入時に、思いや希望・意向を充分把握し、困難な場合も本人本位に考え、支援できるよう努めている。	職員間で利用者を交代で担当する等、利用者の意向等の把握につなげている。日常的な申し送り等を通じて、職員間で情報交換を行う時間をつくりながらカンファレンスの実施につなげ、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から情報を収集し、職員同士で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録・バイタルチェック表、職員の連絡ノートや日々の申し送りで心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族、職員や医療スタッフと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化に合わせた対応が行われている。モニタリングについては、日常的にA～Cで評価し、それを定期的に集計して評価していることで、客観的な評価になるような工夫が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画を毎日評価し、気づいた事や特変等記録し、職員間で情報を共有し次の介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズの状況に応じ、医療スタッフとも連携をとり、柔軟に対応し支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、地域の行事も中止となっており参加が出来ていないが、施設内で季節ごとの行事を感染対策を行いながら、行い楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的を受診して、体調管理に努めている。	運営法人の母体が医療機関でもあることで、ホームの利用者は近隣にある関連の医療機関を受診しており、随時の対応も行われている。また、看護師が勤務していることもあり、医療面での支援や協力医との連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	気になる体調変化や情報があれば、看護師に相談し、必要時は受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等の活用、ケースワーカーとの情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合どういう方向にしていくか、家族の意向を確認し、医師への情報提供をしている。	身体状態が重い方も可能な限り生活を継続することができるように支援が行われている。家族との話し合いについては、ホームで支援可能な内容の確認を行いながら次の生活場所への移行も含め、段階に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍で、法人全体の急変時などの対応訓練が出来ていないので、研修等がある場合は参加が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、日中・夜間想定と防災訓練を行っているが、コロナ禍の為地域の参加、協力体制を築けていない。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域の防災訓練に運営法人の事務局を通じて参加する等、地域の方との協力関係も行われている。ホーム内及び関連事業所内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	近隣にある関連事業所との連携が行われているが、感染症問題が続いていることで交流が中断している状況でもある。今後の感染症の状況をみながら、交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に人格を尊重した声かけ対応をしている。入浴・排泄時の支援には、周囲に配慮した声かけを行っている。	ホームの基本理念には、利用者に寄り添うことも掲げられており、職員が日常的に利用者への対応や言葉遣い等の意識向上にもつなげている。また、運営法人全体で職員の接遇に関する研修を実施しており、職員の振り返りや注意喚起等につなげている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示ができる方には、本人の希望を尊重し、自己決定が出来る様働きかけている。また、話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活ペースを把握し、その日の体調・表情を理解し、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度、訪問理美容を利用し、本人の希望する髪型にしてもらっている。また、自分の好きな衣類を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力に応じたテーブル拭き・下膳等していただき、提供されるだけでない満足感が得られるよう支援している。	食事は、外部業者も活用しながら提供しているが、定期的にホームのキッチンで調理を行う機会をつくり、利用者もできることに参加する機会がつけられている。季節等にも合わせた食事の提供や利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量を毎食記録している。一人ひとりの状態に合わせて、常食・ソフト食の提供、見守り介助、声かけと支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。週に一度、訪問歯科で診て頂き、相談・指導としていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、トイレ内で排泄できるよう支援している。また、尿量に応じてパッドの種類を共有し不快のないよう対応支援している。	利用者の身体状態に合わせながら排泄に関する記録を残しており、申し送り等も通じて、一人ひとりに合わせた支援が行われている。トイレでの排泄を基本に、協力医や看護師との連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防に向け、運動や水分補給、おからパウダー・牛乳等、提供し自然排便を促している。また、排便チェック表にて排便状態の確認を行い、一人ひとりに応じた対応・予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決まっているが、本人の状態に合わせて柔軟に対応している。	月曜日～土曜日に入浴の準備を行い、利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。身体状態に合わせた職員2名での対応や季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの状態に応じ、いつでも休息が出来るよう、支援している。また、日中活動的に過ごし、夜間に安眠が出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報にて、薬を理解し薬のセット、服薬のWチェックを行い、飲み忘れや誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好きな事・出来る事の把握に努め、レクリエーションやお手伝いの中に取り入れ楽しみのある生活支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出は控えているが、近所の公園まで散歩に出掛けている。	現状、利用者が外出が困難な状況が続いているが、協力医療機関が徒歩で移動できる距離にあるため、受診時には外出にもつながっている。近隣に公園がある利点も活かしながら、季節等にも合わせた外出行事の取り組みが行われている。	利用者の外出が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は施設にて行っている。一人ひとりの希望に応じ、職員が買い物を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話が出来る様支援している。お正月には、家族に年賀状を送る支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに装飾を変え、季節感を味わえるよう工夫している。また、毎月季節に合った言葉の習字を書き、居室の入り口にも入居者様と作った飾り物を掲示している。	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者が日中の時間をソファでのおんびりと過ごしたり体操等を行う等、ゆったりとした生活環境がつけられている。また、利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者様同士の場を提供したり、一人ひとり好みの場所を把握し安心して生活して過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものや好みのものを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫している。安心安全確保の為、動線はいつも考慮している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みがある方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。居室内にベッドが備え付けになっていることで、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレに表札をして場所が分かり易いようにしている。また、トイレには「使用中」・「あき」と入居者様が自分で変えられるよう工夫している。		